

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念を基本として、馴染みのある活動や行為を通して、自分の家として過ごせるよう、個々の職員は日々取り組み、努力している。また、事務所前にも理念を掲示して、いつでも確認できるようにしており、来園者にも見て頂けるようにしている。	○ 研修等の時には、理念について確認したり、再確認しているが、定期的に理念を確認する機会は設けておらず、今後も、定期的に日々理念に向けた取り組みが確実に行えるようにしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に、ケアプランでの馴染みの生活行為や、ケアプラン外でも、利用者が輝ける場面を見出し、理念の実践に向け、利用者個々の「できない」ことではなく、「できること」を見つけ、日々取り組んでいる。	○ 個々の職員は、利用者の馴染みの生活に向け、理念に即した実践を行っているが、全利用者が確実にできているかと言えば、まだ不十分な部分もあり、今後も取り組んでいかなければならない課題である。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、定期的に事業所での毎月の状態報告を行い、利用者の暮らしを知って頂いたり、地域運営推進会議でも、地区のボランティアの方や、自治会長様にも参加して頂き、よりあいの理念について理解を得られるようにしている。	○ 今後も、引き続き、よりあいの理念やよりあいでケアを知って頂けるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物には、近隣の方に挨拶をしている。また、近隣の方より、野菜を頂いたり、また、よりあいからも、何か作った際には、お寿司やケーキなど、近隣の家に持って行き、社会的なかかわりが行えている。	○ ある程度、よりあいの近隣の方との交流は持てているが、少し離れた地域の方については、まだまだ不十分な部分があり、今後は、もう少し、視野を広げた活動に取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の開催や、地域の方との関わりを通して、地区のお祭りの案内をして頂いたり、また、利用者の為に、場所の確保等も行ってもらっている。また、近隣の御悔み事等も、近隣の方が知らせてくれる。また、地域の方からも、地区の民生委員より、定期的に手打ちうどんのボランティアにも来て頂いている。	○ 近隣の方や、商店、自治会長様、地区の民生委員の方との関係は密になっているが、それ以外の地区の方との交流は、まだまだ不十分な点があり、今後は、視野を広げた関わりに取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や、自治会に参加させて頂いた時に、「よりあいで行える支援があれば、いつでも協力させて頂きたい」と、その都度、お話をしており、何かあれば協力できる体制は整えている。しかし、実際には、まだそのような活動は実施できておらず、今後も、声を伝えていきたい。	○	その都度、自治会長様や民生委員の方にお話しているが、まだ、実際には、そのような活動は行えていないので、今後も引き続き、何か協力できることがないか、声を伝えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員で個々に自己評価を作成してもらい、その意見を取りまとめて、よりあいの課題分析を行っている。また、前回の外部評価や運営推進会議での町の担当の方の意見より、「看取りの同意書」の作成や、運営推進会議に自治会長様の参加、また、他施設との交流として、同町の他のホームの方にも参加して頂けるようにした。	○	外部評価の結果についても、地域運営推進会議などで報告し、助言を頂くようにしている。しかし、改善して後の見直し等は十分に行えておらず、今年度については、サービス評価委員会にて、定期的に見直しを行っていくよう話し合いを行い、改善に向け取り組むようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地区のボランティアの方、家族会代表者、民生委員、町の担当者、また、他のグループホームの職員の参加のもと、よりあいの報告を行い、また、意見を頂き、サービス向上に向けて取り組んでいる。		今後も、定期的に2カ月に1回、運営推進会議を開催し、客観的な立場での意見を頂きながら、サービス向上に向けて取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、町の職員の方にも参加して頂いており、助言を頂いている。また、よりあいでも困った事等は、その都度、町の担当の方に連絡を取り、相談するようにしている。また、毎月、町の方に、よりあいの入退所情報も渡すようにしている。		併設のデイサービス利用者について、自宅での徘徊の状況から、ココセコム設置による協力依頼があり、夜間や休日等の時に、よりあいにも連絡してもらえれば、ココセコムでの対応をよりあいでも行うことを町と話し合いし、実践している。また、マニュアルについても、町に確認してもらい、何かあればマニュアルに従って対応できるようにしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入所前より、成年後見制度を活用している方がおられる。また、制度について質問のあったご家族については、その都度説明するようにしている。	○	しかし、具体的に説明できるパンフレットの設置ができていなかったり、権利擁護に関する研修も十分には行えておらず、今後は、研修の機会や、パンフレットの設置を行っていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会にて、身体拘束は行わないことを基本として取り組んでいる。しかし、外に出ようとする利用者に対しては、業務や人員によっては、外に出ようとするのを制止してしまう事があり、対応につきも検討していく必要がある。	○	基本的には、不安感の強い方に対しては、できるだけ一緒に外に出て散歩をするようにしているが、常時行っているかと言えば、行えていない事もあり、できるだけ自由に生活して頂けるよう、今後も取り組まなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、「よりあいの利用のしおり」にて、説明を行い、また、実際の契約時にも、契約書や重要事項説明書にて、納得を得た上で手続きを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見については、その都度お話を伺い、可能な限り対応していくようにしている。また、外出の希望等も、実際に行事やお芝居、温泉など、実現に向けて取り組んでいる。	○	利用者からの苦情として、他の利用者についての話が一番多く、認知症の程度によるトラブルであり、解決は困難であるが、その都度、ゆっくりお話を伺い、話を聴くようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族様へ状態報告と写真を1枚添えて暮らしぶりを報告している。また、金銭に関しても、現金出納簿を作成し、ご家族様に確認印をもらうようにしている。家族会については、半年に1回開催し、よりあいの報告や、食事会を行うようにしている。		家族会については、参加できなかったご家族様についても、家族会での資料や、報告書を送付するようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを玄関前に設置したり、運営推進会議にも、家族会の代表に出席して頂き、意見を伺うようにしている。また、毎月送付している状態報告にも、よりあいに対するアンケートをつけ、意見を回収できるようにしている。また、苦情があった際には、早急に対応できるよう書面で残し、職員間で話し合い解決に向け取り組んでいる。	○	ご家族からの意見については、数件あり、対応させて頂いているが、やはり、全ご家族からの意見は、なかなか伺えておらず、また、家族アンケートからも「満足」という意見が多い事からも、今後も、できるだけ言いやすい関係に向けて、取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何か気付いた点があれば、その都度、職員の意見を取り入れ改善して行けるように取り組んでいる。しかし、定期的な寮母会の開催が行えておらず、できるだけ、職員が言いやすい環境を整えていきたい。	○	今年度より、定期的な寮母会を開催しており、できるだけ職員の意見を言いやすい環境を整え、提案を反映できるようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事によっては勤務職員を多く配置したり、急な休みにも対応できるよう、各職員が常に意識して勤務している。また、勤務変更が突発的にあった場合でも、各職員は柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで、離職者1名と、今後産休に入る者がおり、2名他施設より配属があったが、それ以外の異動はなく、また、新しく配属された職員も、少人数と言うこともあり、馴染みの関係ができつつある。また、利用者の方からも、特に苦情は聞かれていない。		法人自体が様々な事業を行っており、人事異動も今後考えられるが、引き継ぎや、新しい職員の紹介、また、利用者の状態把握や、よりあいの業務に、すぐ対応できるよう「よりあい業務マニュアル」を作成しており、新しく配属された職員や、利用者にも、できるだけダメージを防ぐ対応も行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートにて、各職員の到達すべき課題を明確にして取り組めるようにしている。また、昨年度不十分であった研修についても、今年度は研修計画を作成し、すで実施している。しかし、一番大切にしていることはOJTであり、主任を中心にして、その都度説明したり周知していくようにしている。	○	昨年の課題であった研修も、今年度より年度計画を作成し、実践しており、引き続き計画的な研修を行えるようにする。また、事業所とは別に、法人で研修委員もあり、法人全体で行う研修会にも参加し、自己研鑽できるようにしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前回の外部評価、並びに運営推進会議での町の担当者からの助言により、同町のグループホームと、まず、運営推進会議にお互いが参加することで、視野を広げて行く取り組みを行っている。	○	今後は、運営推進会議だけでなく、お互いのグループホームで職員同士が集まり、研修機会を設けたり、話し合いが行える場を設けて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスが溜らないように、管理者として、日々の業務の中で、意見を聞けるようにしている。また、できるだけ職員に対して、変わりはないかなど、声をかけるようにしている。	○	しかし、離職者1名については、相談を受けるも、的確な助言が行えなかった事もあり、離職させてしまい、今後は、できるだけ、個々の職員の体調や表情をよく観察し、ほんの些細な事でも気づけるように、管理者として注意していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	なかなか研修派遣は、少ない職員数で定期的に派遣する事は困難であるが、県外研修や認知症研修には参加できるように、個々の職員の向上心に向けて実践している。また、日々の職員の提案も、その都度話を聞き、個々の職員のレベルアップにもつなげていけるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず事前調査に伺い、入所してからの生活について、利用者やご家族に伺うようにしている。また、利用者の方が困っているようであれば、個別にお話を伺うようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず事前調査に伺い、入所してからの生活について、利用者やご家族に伺うようにしている。また、利用者の方が困っているようであれば、個別にお話を伺うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の時点で、グループホームに適しているかどうかの見極めとして、「医療行為」や「よりあいでの生活」について、「医務マニュアル」や「利用のしおり」を使って説明している。また、入所の決定については、事前調査資料を基に、職員間で入所判定の話し合いを行い、各職員にも把握できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、事前調査にて、ご家族や本人へ説明するだけでなく、事前によりあいに来所して頂き、その場の雰囲気を感じてもらえるようにしている。また、実際に入所前に見学に来たり、実際にはまだなく、十分な対応は困難ではあるが、1日体験も可能であることも伝えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や畑仕事など、利用者の方にどのようによければ良いか聞きながら行っている。また、誕生会も一緒にお祝いするようにしている。また、収穫した野菜なども、利用者の方に調理の仕方など伺いながら、できるだけ利用者の方が輝ける場面を作れるよう取り組んでいる。		今後も、業務の都合で考えるのではなく、何事にも利用者の方と一緒にすることを大切に考えて、取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族より相談があれば、その都度伺うようにしている。また、毎月の状態報告だけでなく、変化があれば、その都度ご家族に連絡し、どのように対応していくか伺っている。また、ご自宅へ伺っての相談が必要であれば、ご家族の都合の合う時間に訪問し、相談も行うようにしている。面会の際にも近況報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の際には、ご家族にも連絡し、できるだけ利用者の方と一緒に楽しいひと時を共に過ごして頂けるよう取り組んでいる。また、面会時等も、話がしやすいように、自室やロビーへ案内するようになっている。また、家族会では、食事を一緒にいき、会話もはずんでいる。	○	しかし、行事については、ご家族の仕事や都合で、参加ができないご家族もおられ、今後は、曜日や時間に配慮した取り組みを行っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会では、ゆっくり話ができるように場を設けたり、職員が間に入り、言葉の橋渡しを行っている。また、ゆっくり過ごして頂けるように、コーヒーやお茶等のおもてなしもしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で関係形成できるよう、職員が間に入り話をしている。また、そうすることで、利用者同士が自然に関わりを持ち、お互いを気遣っている場面が多く見られている。孤立しがちな利用者についても、職員が間に入り関わりを持てるようにしている。	○	しかし、少人数だからこそ生じるトラブルもあり、トラブルとなった対応について、職員間で話し合い、関係が崩れないよう、今後も取り組んでいく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても、必要に応じて相談に応じさせて頂く事は伝えており、実際に退所後に、ご家族より相談があり、次のサービスにつなげた事もある。また、それ以外でも、必要があれば、地域包括支援センターや町の担当者と相談していくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用したアセスメントにて、馴染みの生活を把握し、日々の生活の中でも、利用者の意見を伺いながら、その都度、買い物や散歩、外出行事など行うようにしている。	○	しかし、全ての利用者の方の意見が聞き取れているかと言え、まだ不十分な点もあり、今後は、一人ひとりの意見を記録していく等の取り組みを行い、実現できるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には事前調査を行い、実際に入所する時には、センター方式を活用したアセスメントにて、これまでの生活について把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、引き継ぎや日誌類、申し送り、医務申し送りノートにて確認し、その方の生活状況が確認できるようにしている。また、必要に応じて、その都度、職員で話し合っ、対応するようにしている。	○	昨年度までは、その時その時で話し合いを行い、実践してきたが、やはり、職員で集まって、実施している内容の再確認や検討が必要であり、それを行えるよう、今年度より寮母会を定期的開催し、確認していくよう取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、事前調査での資料や、センター方式を活用した書式にて、利用者の状況や、必要があれば担当職員と話し合いを行い、日々の生活を交えながら作成するようにしている。	○	しかし、ケアプラン作成については、前回の外部評価でも指摘があった、チームでの介護計画が不十分であり、今年度より、アセスメントの段階から担当職員と作成し、できるだけチームで利用者本位の介護計画に取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しについては、見直しの時期が遅れがちではあるが、その方の実情に応じて、引き続きケアプランを執行し、変化があれば、見直しをできるだけ早く行えるように取り組んでいる。	○	しかし、実情としては、なかなか見直しの時期が遅れてしまいがちであり、できるだけ定期的な迅速な見直しを行っていけるよう取り組んでいきたい。しかし、緊急の場合には、「緊急時の対応」として、別に書面で職員に周知したり、申し送りノートにて対応していくようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録としては、ケアプランについては、チェックノートを活用したり、日々の生活については、ケース記録を含め、食事・排泄・入浴・睡眠など、細かく分けて記録していくようにしている。また、そのような記録から、ケアプランに反映させたり、日々の体調確認に注意していくようにしている。	○	しかし、現状として、記録類が多く、それが原因で、職員一人ひとりにかかる記録の負担が大きく、現在までも、記録類を改訂しながら行っているが、今後も、利用者だけでなく、職員に対しての記録の充実に向けた取り組みを行っていかなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議や、家族会等で、事業所の多機能性について説明しているが、実際には、そのような取り組みは行っていない。	○	今後も、ご家族や地域の方に、よりあいを知って頂けるように、情報公開や地域に出での活動を行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事等には、地域の民生委員の方やボランティアの方に参加して頂いたり、防災訓練等には、消防署職員の立ち合いのもとで実施している。	○	引き続き、地域に出での生活を目指し、更なる地域資源を活用した取り組みを行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所される場合など、家族や必要に応じて地域包括支援センターとも話し合いを行っている。		今後も引き続き、退所等の際には、ご家族だけでなく、他の事業所とも相談しながら実施していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	町の健康増進課係長様からも運営推進会議に参加して頂き、何かあれば相談させて頂いており、また、健康増進課内にある地域包括支援センターとも相談して頂き、何かあれば、相談やお話を伺うようにしている。		今後も、本人や家族の意向、権利や総合的なケアマネジメントなどがあれば、町の担当の方も含めて、地域包括支援センターと相談していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前には、今まで馴染んだ医療機関での医療も継続可能であることも説明している。また、去年は、協力医療機関に受診していたが、医師より「待ち時間も長く、お年寄りも大変だと思いますから」と、よりあいに定期的に往診して頂けるようになった。		定期的な往診だけでなく、何か変化があれば電話連絡にて医師に相談し、指示を頂いたり、必要があれば、その都度受診に行く等、できるだけ迅速な対応を行うようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今の所は、認知症の専門医との関係は行えていない。	○	法人で、他の事業所で専門医による往診も行われている事もあり、法人内で話し合いや、そのご家族とも協議しながら、専門医による医療が受けられるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は配置されていないが、何かあれば、隣のデイサービスの看護師に相談している。しかし、基本は、協力医療機関に連絡し、その都度、的確な指示を頂くようにしている。		協力医療機関の医師については、大変良く見て下さっており、「休日や祭日、また、夜間を問わず連絡して下さい」と言って下さっており、何かあれば、すぐに電話相談などさせて頂いている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、定期的に面会に伺い、病院の看護師と相談したり、医師と早期退院に向けた話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して入院にて退所された方がおられるが、週に1回ペースで伺うようにし、ご家族から状態報告を受けたり、医師から説明を受ける等して、今後の対応について、出来るだけご家族の要望に合う対応をしている。また、入所の時点で「看取りに対する同意書」にて、ご家族の意向を伺い、緊急時など迅速に対応できるようにしている。		重度化や終末期については、よりあいで行える「医療行為について」や、協力医療機関の医師と相談しながら、できるだけ、ご家族の意向に対応できるように取り組んでいる。しかし、現実の対応としては、なかなかグループホームでの終末期の対応は困難な面もある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	確実な重度化や終末期に向けたマニュアルは作成できていないが、グループホームで行える医療行為として、医務マニュアルを作成しており、入所の時には、ご家族へ説明している。また、何かあれば、協力医療機関の医師より「相談するように」とも言われている。ご家族の意向については、入所の時点で「看取りの同意書」を作成して頂き、緊急時の対応が迅速に行えるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所による家族との関わりについては、入所間近は、定期的にご家族に面会に来て頂いたり、その都度電話連絡して、状況説明するようにしている。また、慣れない方については、デイサービスのよう、送り迎えをしたり、外泊についても話し合っていくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいに注意したり、基本ではあるが、排泄時のプライバシーや更衣でのプライバシーについても配慮している。また、トイレについては、できるだけ「トイレ行った?」という言葉減らす為に、排泄チェック表にて時間を記録し、なるべく羞恥心に関する言葉を使わないように注意している。	○	しかし、全てにおいて注意出来ているかといえ、不十分な点もあり、介助に対しての言葉づかいには、今後も注意して行かなければならない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のしたい事や希望等は、その都度何うようにしている。買い物の希望については、その都度行けるように対応しており、その他の希望についても、その時の職員や時間にもよるが、できるだけ迅速に対応できるように取り組んでいる。	○	しかし、実際には、職員の勤務数や時間によって、すぐに対応が困難な時や、数日後になる時もあり、できるだけ、普通に生活しているように、その時その時の思いを実現できるように取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や睡眠時間、また、おやつ時間など、本人の思うように行えるよう取り組んでいる。また、一人で外に散歩に出かけたい方についても、できるだけ希望に添えるように対応している。		今後も引き続き、一人ひとりのペースに合った日々を過ごして頂けるように取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	全ての利用者ではないが、衣類は、本人の希望に沿って、一緒に買い物に出かけている。また、時には、大きなショッピングモールに出かけて買い物も行っている。理美容については、近くの理髪店に出かけたり、利用者によっては、希望により昔の行きつけの美容院にお連れして、理美容を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事メニューを考え、できるだけ一緒に調理や準備、片付けを行っている。また、食料品の買い出しには2日に1回のペースで利用者の方と一緒に出かけているが、その時にも、食料品を選んでもらう事もしている。	○	しかし、メニュー作りについては、全てに利用者の意向を反映しているものではなく、職員が考えて作成していることもあり、今後は、部分的に何うだけでなく、利用者の希望を反映できるようにメニュー作りを考え、取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつについては、利用者の方に、その時に何が飲みたいか聞いたり、買い物の時等には、どのようなおやつ良いか聞いて購入している。毎回ではないが、季節に応じた手作りおやつも行っており、利用者の方と一緒に作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや、個別の排泄案内が行えるように、個別の排泄記録をつけて、一人ひとりに合った排泄介助を行っている。また、失禁による不快や不安を解消できるよう、排泄ノートを活用し、いつトイレ案内したか確認できるようにもしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、夕方と夜間帯に入浴を行っており、利用者の方も2日に1回は入浴できるようにしている。また、入浴日でない方も、時間が合えば、入浴日以外でも入浴して頂いている。また、別にケアプランにて、手に冷感ある方は、日中手浴も行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れた時には、畳の間で横になってもらったり、不安感の強い方は、一緒に職員も横になって過ごしている時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた外出行事を行っている。また、天気がよければドライブに出かけたり、日々の生活の中では、その方が得意とする縫物や掃除、畑仕事、食事の配膳、お米とぎ、食器洗い等、出来るだけ役割のある生活が行えるようにしている。		利用者によっては、役割が負担になる場合もあるので、その時の状況に合わせて行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したい方については、入所時にご家族とも相談にて、自己管理されている方もおられる。また、買い物に出かけた時は、自分で買い物して支払っておられる方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて外出や外出行事を行っており、天気の良い日は散歩やドライブに出かけている。また、2日に1回買い物に出かけており、利用者の方も交代で、買い物に付き添って頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	当たり前の生活をモットーに、温泉やお芝居、遠出での花見など行っている。また、外出行事の際には、ご家族にも案内して、一緒に楽しいひと時を過ごして頂けるよう取り組んでいる。		外出行事については、ご家族によっては仕事の関係で参加できないご家族もおられ、今後は、できるだけご家族の方が参加しやすい曜日や時間を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があれば、ホームの電話を利用して電話使用している。また、手紙のやり取りを行う利用者の方はおられません。希望があれば、行える体制は整えている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶を出したり、ゆっくりお話ができるように場所を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、禁止事項の確認を行い、身体拘束はしていない。また、身体拘束が必要な場合には、身体拘束廃止に向けた書式も作成している。		身体拘束については、毎月、事故防止委員会にて、利用者のリスクについて検討しており、そこでも、リスクからの身体拘束がないように取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に玄関のカギはかけておらず、自由に入出入りできるようになっている。居室については、利用者の希望により鍵をかけている居室もある。	○	しかし、玄関には鍵をしていないが、裏口については、どうしても職員の目が行き届かないこともあり、施錠させてもらっている。今後も、できるだけ玄関だけでなく、全ての戸口で鍵をかけないような対応を考えて行く必要はある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士で、注意が必要な方の確認を行い、職員同士で声をかけ合いながら、所在を把握できるようにしている。また、注意が必要な方については、1時間毎に所在を確認していくよう所在確認のチェックノートをつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや包丁等は、所定の場所に保管している。また、必要に応じて、調理の際に、利用者の方に渡し、見守りしながら行ってもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があれば、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、その都度、勤務している職員でカンファレンスを行い、対応していくようにしている。また、注意が必要な場合は、申し送りノートにも記入し、再発防止に向けて取り組んでいる。	○	事故報告書は提出できているが、ヒヤリハットの報告書が、なかなか報告書としてあがらない現状があり、現在、事故報告書とヒヤリハットの書式を再検討しており、また、ヒヤリとは何かについてもまとめており、今後、事故防止に向けた取り組みを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成しており、その都度、事故や急変に合わせて対応している。また、急変や状態が変化した時は、協力医療機関の医師に指示を仰ぎ、その都度、指示に従って対応している。	○	緊急時の対応として、緊急時のマニュアルを作成し、事故が発生した時のマニュアルは作成しているが、その研修が不十分な点もあるため、今後、研修委員会にて緊急時の処置の仕方など、研修を計画していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に年2回、消防職員立ち会いのもと、防災訓練を行っている。しかし、地震対策に対するマニュアルや訓練が行えていない。	○	消防職員からも指摘があり、地震対策についても、次回の防災訓練までに作成し、また、消防職員と相談しながら、地震対策に対するマニュアルや訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故報告書にて、その都度、必要があれば、ご家族に連絡し報告している。また、利用者の状況によっては、転倒の危険や対応が難しくなる事も伝え、ご家族との連携のもと対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌や申し送り、医務申し送りを確認し、状態に変化があれば、協力医療機関の医師に連絡し、指示を仰いだり、ご家族に報告している。必要に応じては、受診したり、他の医療機関に紹介して頂いている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認ノートにて、個々の服薬状況を確認できるようにしている。また、処方箋についても、ファイルに閉じて、職員が確認できるようにしている。	○	個々の職員は処方箋にて、薬の内容について確認はしているが、定期的に確認できているかといえばそうではない点もあるため、的確に職員が把握できるように、指示や注意を行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表を用いて、個々の利用者がどれだけ水分を摂取しているか確認している。また、おやつの中には、牛乳やミックスジュースなど、便通に良い物も提供している。また、日々の生活の中でも、掃除を一緒にしたり、体操も取り入れ、体を動かす取り組みも行っている。	○	しかし、実際には便秘気味の方もおられ、下剤や浣腸を行っていることもあり、今後も、できるだけ自然排便につなげて行けるよう、水分や体操など、更に取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、歯磨きを行っている。しかし、中には「自分でしている」と言い、なかなか口腔ケアを行って頂けない方もおられる。また必要に応じては、訪問歯科診療を受けられる体制を整えている。	○	ご自分でされている方への対応について、なかなか声かけしても気分を害する方がおられ、ご自分でされている方への対応について検討していく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎回チェックしている。医師の指導にて、塩分を控えることや、水分を多目に摂取しなければならないことなど、個別に対応している。		栄養面に関しては、定期的に協力医療機関の医師にて血液検査を行い、血液検査の結果で糖分や塩分の確認を行っている。また、その結果で、各利用者への栄養面の指示や、薬の調節など行ってもらい、個々の栄養面には注意している。また、ご家族にも注意点等があれば、報告している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成し、それに添って対応している。また、食事前には、必ず手洗いを行い、外出後には、手洗いとうがいを行ってもらっている。外部の方についても、玄関に掲示して、感染対策を行って頂くようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理チェック表にて、清掃・消毒を行っている。食材については、2日に1回の買い出しを行っており、購入した生鮮食品は次回の買い物までに使い切るようにしている。包丁やまな板についても、1日1回はハイター消毒するなど、衛生管理を行っている。	○	冷蔵庫内の清掃が十分にできていない事もあり、定期的に冷蔵庫の清掃と消毒を行っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周囲には、花壇やプランター等に花を植えており、親しみやすい環境に配慮している。また、できるだけ施設ではなく、家として玄関から入って頂けるように、玄関も普通の家の玄関にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物については、建築時より、建築士と相談しながら、日本家屋風に建築してもらい、違和感のある物を飾ったり置かないようにしている。季節の花等は、職員が持ち寄り飾っている。また、天気の良い日等は、必要以上に明るくならないようにしている。		しかし、中には、花をちぎる方もおられ、それを他の利用者が見て、トラブルの原因になる事もあり、注意している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設け、一人で過ごせるようにしている。また、畳の間で横になる際には、障子を閉め安心して休めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所説明の際に、家で使用していた物を持参して頂けるよう説明している。中には、写真や小物類を持って来ている方もおられる。	○	しかし、馴染みの調度品等は、全ての方が持参しているわけではないので、今後も、ご家族に、馴染みの物の大切さについてお話し、少しでも居心地の良い空間になるよう取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室については、毎朝窓を開けて、空気の入替えをしている。また、フローアについても、随時換気するようにしている。フローアや居室の湿度や温度についても、湿温度計を設置しており、空調に注意している。また、加湿器を設置する季節には、居室やフローアを含め定期的に温度や湿度を確認し、快適な空間作りを行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当初設置していなかったが、脱衣室内の手すりの必要があり、設置した。また、よりあい内の手すりについては、必要以上の手すりは設置していないが、今後も必要があれば、建築当初より下地はしているので、手すり設置も随時検討していく。		今後も、必要箇所については検討していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの扉は、昔の「かわや」風に、昔の扉を特注で作ってもらい、馴染みのある物で「わかる」ように配慮している。また、表札も最初から設置するのではなく、声かけしてご自分で理解してもらうようにしたり、必要があれば、フックに印をつけられるようにしている。	○	しかし、中には、トイレや自室が分からない方もおられるので、今後工夫していく必要がある。しかし、基本は印よりも、声をかける事を中心に実践していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、プランターを設置し花を植えている。また、ベランダについては、自由に出入りできるようになっており、ご自分で水やりを行っている利用者の方もおられる。その他にも、畑を作っており、季節に応じて畑作業も行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

前回の外部評価時同様、できるだけ当たり前の生活が行えるよう、日々の生活の中で、掃除や調理、配膳、畑仕事など、利用者の方が、生活の一側面で主役となれる場面を大切にしています。また、近隣の方との関係も大切にし、地域の商店へ買い物に出かけたり、地域の方への挨拶など、地域の方との関わりも大切にしています。医療面については、協力医療機関の医師がよくして下さいっており、何かあれば連絡し、その指示のもとで対応できており、大きな体調変化を起こされた方もいません。